

DMC最高～～

2010.09.02

。。って言うか、DMCはアニメでもマンガでもないみたいんですけど。。。このゲームはDevil May Cry 4で、日本語で確か「デビル メイ クライ」です。まあ。。英語と同じなもんだね～最近これを遊んでいます。ネ口はすごくかっこよくて、ダンテはね。。すごく。。。まあ、おっさんになてしまってもかっこいいおっさんです。これで満足です。。。でもやっぱおっさんじゃなかったらもっとかっこいいかな～やはりはね、二次元がいいですね、たとえそれは3Dなゲームでも。。。これからはもっとがんばれーダンテがんばれ、おっさんがんばれ、もっとかっこよくなれ！

これは日本語で投稿されたものです

いろいろなこと

2010.09.14

さっきテレビのニュースで、菅直人続投のニュースが。岩手に来てから初めての日記です。私もブログを持ってるので、あまりここに書き込む気はなかったんだけど。それに私の書き方って独特だから翻訳が大変なんじゃないかと……翻訳の人には申し訳ないかな。今日の午後は学校が休みで、明日は9月の月例テスト。今日の午後は先生方の会議があるので、私たちは自宅学習。私が受けるテストは数学の1教科だけ……それ以外の時間はほかの教室で自習。家に帰る時、ヘッドフォンを買ったよ。はじめはインナーイヤースタイルのしようと思っていたけれど、結局ずっしり重いヘッドバンド型の。でも音質はとてもよくて、さすが、正真正銘のオーディオテクニカ、最高！本当はON300を買おうと思っていたけれど、音質を優先したいので折り畳み式の。大事に使おうと。でも初めてこんなにお金をつかっちゃった！って言っても2000円だけど……だって今まで水とかお菓子とかしか買ったことがなかったから……あ、それと赤ペンとファイルも買ったかな。Rilakkumaって、すごく可愛いよね。ずっと辛い物を食べていないから、なんだか辛い物が食べたいな。（ね、翻訳大変そうな文章でしょう。私の日常ってmaniacだから……）昨日の地震があったけれど、みんな他のことに気を取られてはじめてのうちは誰も気づかなかったの。私もちょっとゆれてる？って思ったぐらいで、気のせいだと思っていたよ。そうしたら先生が授業をストップして、みんなも静かになったら、揺れが来て、先生が「あ、地震だ。」私はドキドキしてあせっちゃった。でもみんなは平然としていて、先生は「机の下にもぐろうか？」って言った後、自分で机の後ろのほうへ。でも地震はすぐにおさまったけれど。ハッと気づいたら、私は両手を胸の前でぎゅっと握りしめて、緊張している姿をさらしちゃった。だって初めてだったんだもん。先生が「中国でも地震にあったことは？」って聞いてくれたけど、何も答えられず、ただ頭をブンブン振っただけ。だって、もう怖くてコワくて。そうしたら「地震は日本の名物だから、たっぷり体験していきなさい」って。クラス中が大爆笑。ちょっとしたら先生が隣のクラスにも「さっきの地震、気づきましたか？」って確認に。お隣のクラスの先生は「大丈夫ですよ」って。またクラスが大爆笑。先生も「これじゃあ、日本語の受け答えになっていないよね……」って。それから数学の授業は楽しい雰囲気のまま終了。ここは田舎じゃなくて本当によかった。高いビルや建物があって、いろいろなお店や、施設もあるけれど、自然の風景にもほっとさせられる。教室の窓から空を眺めているといつも心が洗われるみたい。中国ではみたことのない広い空、すぐに形を変える雲に岩手の山が見え隠れして、頂上を雲が覆っている。こんな風景は高いビルよりずっといいよね。毎日学校へは電車じゃなくて車で登下校。これって本当に気持ちがいいよ。家族もいい人たちばかり。お父さんは専門職で、家の中にはいろいろな機材があるんだ。パソコンは3台で、一眼レフも。お父さんは音楽も好きで、家にはギターやエレキギター、それからざっと見ただけで300枚以上のCDやDVD。お母さんの作るご飯はすごくおいしくて、独り言をいったり、なんだか日本のドラマに出てきそうなかんじで超可愛い。それとお姉さんと弟と、私と同じ年の女の子。この子が超可愛くて、家族はみんな大の仲良し。お母さんも同じことを言っていたけれど、14日間なんてあつという間だった。毎日のがやくすぎてしまうけれど、学校で友達もできたし、みんなとても親切。家が恋しいって気持ちもそんなに強くなって、毎日楽しいよ。もしかすると、私ってどこでも適応できちゃうサバイバル人間なのかも……英語はちょっと苦戦、単語がわかるぐらいかな。でも心連心から借りた日本語の辞書の、RFVの3つのキーが使えなくて、困っちゃう。日本語は何とかなっているけれど、英語はもうお手上げ。英語の辞書が要るかな……古典も本当にタイヘン。徒然草が終わって、今度は竹取物語なの。今頑張って助動詞の用法を勉強しているところ。数学も泣きそう。みんなは私が全然勉強していないことも、とっくに習っているなんて……がんばって確率を独学中。思っていたより大変だけれど、すごく充実しているよ。次の目標は軽音楽部に入って、毎日ギターを練習すること。テストが終わったら、10月に中国に行く先生と生徒に中国語を教えることになったの……放課後毎日やるっていうのもたいへんだよね。勉強だけじゃなくて授業の準備もあるからね。学校に、高2の帰国子女もいるんだ。日本語、英語はもちろん、中国語までべらべら……それと中国語を話せる先生もいて、通訳がすごくお上手。こんなに中国語のできる人たちが身近にいてくれるなんて意外だったな。これからもがんばろう。（でもやっぱり私の日記って、他の人のとは全然違うような気が……）翻訳、お疲れ様。

北緯四十度から

2010.10.08

今は朝五時。カーテンが閉めているので、そとがどうなっているのかわからない。たぶん明けていないと思う。今日はホストファミリーと一緒に海へ行く予定。海を見たことがあるけど、今回は特別な岩手の海を見に行く。出発は朝六時。いろいろ準備し、いよいよ車に乗った。テレビにより、今日波が高そうだ。六メートルというのは、多分台風のせいと思う。六メートルの波はどんな感じだろう。私は思わず期待をかけた。温度がちょっと低い、七度でけだ。まだ朝早いので、太陽が昇った後だんだん暖かくなるだろう。でも幸い、きれいな晴れた日だ。まずは久慈へ行く。旅の路線は久慈から宮古まで、海岸線に沿い、陸中海岸国立公園の様々な景勝地を見に行く。ほぼ2時間を経て、久慈に辿り着いた。北緯四十度の村から、旅が正式に始まった。白樺がたくさん見えた。少し進むと、やっと海が見えるようになった。期待に添い、これは私が見たことがない海だった。車から見ると、高波が海岸に押し寄せている。波が落ちると、真白な泡となった。波打つ音が車の中でもはっきり聞こえる。車から出ると、どんな声が聞こえるだろう。どきどきしながら、私は車のドアを開けた。海風と共に来たのは、大きな音だ。轟音でも言える大きな音だった。まるで耳をつんざくような音だ。海はもともとこういう姿なのだろうか。これは本当に今まで見たことがない海だ。私はカメラを持ち上げ、シャッターを何回も押した。今回は海の近くに行かなかった。危険のあまりに、ただ遠くまで立て、そのまま見つめていた。そのあと、私たちはすぐ次の場所に向かった。それはだいたい山から見る海だった。断崖がたくさんあり、典型的なリアス式海岸だった。海は青く、北国の海だ。高波が断崖を打て、微かな雫が山まで届き、私たちの顔に軽く伝わった。海の匂いが満ちた雫で、爽やかな気分になった。海風が強くて、目が開けないうらだった。けどどの景色も美しかった。最後に行ったのは浄土ヶ浜だった。浜といい、砂浜ではなかった。海に打たれ、丸くてつるつるしている玉石だった。この客が一番多かった。玉石の上に、うみねこがたくさん立っていた。うみねこは、猫ではなく、鳴き声が猫と似ていた海の鳥だった。実際に聞くと、本当に猫と似たかわいい声だった。この浜でやっと海に近づけた。手を出し、慎重に海水にふつと触った。涼しかった。波が大きな岩を乗り越えて来るたび、まるで滝に見えた。その波が落ちる一瞬で虹が見える。私はそれを撮るため、長い時間を待っていた。宮古から盛岡に帰る途中、私は車の中で今日の旅を味わっていた。一番印象に残ったのは、青と白だった。限りなき青い空、限りなき青い海。空に飾った白い雲、海に飾った白い泡。または、海の轟音。特別な海、一生忘れきれない思い出となった。

これは日本語で投稿されたものです

冬と共に眠り

2011.02.26

広島から帰ってもう三週間ぐらい経った。全てはまだ昨日のようにはっきり頭の中に浮かんでいる。確かに、楽しかった。見学も、久々の中国語も。皆ホテルにいたとき、集まって話し合っているけれど、私はほとんど一人で部屋に静かにいた。昼間もう十分話し合ったから、別に寂しさを感じなかった。けれど、そのうちに、何が変わったような気がした。旅で気分が変わったりするのが分かっているけど、でもその気分はそういう簡単なものでなかった。広島から帰っていた途中、新幹線に乗って、外の景色を眺めながら隣の子と一緒におしゃべりしていた。帰りたくない、ずっとみんなと一緒にいたいって言っていたが、実の気持ちはあのように激しくなかった。楽しいは楽しいけど、広島にいたとき勉強とかも何もできなかった。早く帰って、通常の生活を再開したいと思った。やがて、隣の仙台の子も降りて、はやての中の留学生は私一人だけになった。だんだん北に行って、冬はだんだん戻ってきた。岩手県に入って、いっぱい積った雪が目前に現れた。岩手はまだ冬だ。このちょっと懐かしく感じる銀色は、とても好きだ。窓の外の風景は、真白の大地と薄青い空、そして黒く見える木。全体的は青く見える。仙台とはまだ全く違う風景だ。ふっと、ここが私の居場所、私の家だと思った。そして遂に、岩手県の一番寒い場所——盛岡に戻ってきた。駅でうろろうしながら迎えを待っていた。五時頃お母さんの車が来て、私は車に乗った。「お帰りなさい」温かい言葉が聞こえた。私は笑って、お母さんに向かって、声大きく「ただいま」と言った。何も変わっていないんだ。そのままでもいいんだ。そのあとの日、静かに過ごしていた。学校。旧正月。豆まき。復習。届いた荷物。学年末テスト。丸山さんと塩沢さんの訪問。そして、久々に遊びに行った。ホストファミリーのみんなで雪まつりに行った。盛岡から雫石にある小岩井農場に行った。行く途中、もちろん山を経由した。山道にいたとき、はっきりした大きな岩手山が見えた。私は降りて写真を撮るのを止めた。隣の姫神山も見えて、また二つの山の伝説を思い出した。農場に近づく途中、いっぱい動物の足跡さえついていないきれいな雪が見えた。飛び込めそうって隣の同い年の子が嬉しそうに言った。たぶん農場の範囲に入った。馬と牛とか遠くから見えていた。駐車場で車を止めて、雪まつりの会場に向かった。まだ早いけれど、最終日なので、人が多かった。入ったら雪像が沢山見えた。銀河鉄道の迷路と宮沢賢治の像とか、ワンピースとブリーチとか、色々あった。会場は広くて、見渡す限りほとんど真っ白だった。雪像を見て、アツアツの豚肉の饅頭を食べた。また小岩井農場のお土産と紹介を色々見て、最後がまくらの中でジンギスカンを食べた。やはり羊の肉はおいしい。雪まつりの後は、手作りの村に行った。手作りのものは本当に素晴らしいと思った。南部鉄器、特に鉄瓶がとても気に入った。値段はちょっと高いけど、なんとなく買いたい気分になった。その鉄の色と手触り、そしてそれぞれの模様は本当に精緻で美しかった。奈良時代から優れていた技術は、今もこんなに完全に残っていることは、何よりも感動させた。鉄器を作るビデオと実際に作っている様子を見て、歴史の深みと人間の知恵を感じた。今を生きて、ここで生きているのは、自分で生きることではなく、何かとともに生きているのを感じることは大事だと思った。たとえばここで啄木の短歌を詠んで、その気持ちを感じてみてから、また今は彼が立った土地に立っているのを知ったら、なんとなくつながりを感じるだろう。そのつながりはひとを過去とつなげて、一人を世界とつなげることができる。生きていた時間が延びたように、まるで啄木と一緒にいた感じさえるだろう。どんな時でも、周りにだれもいなくても、ただここに立っていて、後ろに何かが自分を支えている気がする。そこから、人はどんどん未来へ踏み出す。そういう風に考えながら、私の目で見たことが心に徐々に入り込んだ。何かで、心が満たされた。帰った途中に、またいろいろの景色を見ていた。目で見えた景色が頭の中の思想が変わって、新しいものを生み出したような気がした。盛岡は別に東京と大阪とかみたいな国際大都市ではないが、自慢できる特色をいっぱい持っている。宮沢賢治と石川啄木、南部鉄器と南部馬、岩手山と姫神山、北上川と中津川と雫石川、冷麺とじゃじゃ麺とわんこそば……どう考えても、この都市はもう十分満たされている。四季がはっきりしていて、とても美しいところだと思う。特に冬は12月から雪はもうずっと積もっていて、どこでも白銀に染まって、気温だけではなく目で見える冬だ。私にとって、それが一番美しい。すごく寒い。でもやはり好き。自然に恵まれたこの大地にいたい。この気持ちが強まってきた。やっと家に帰った。ちょっと疲れを感じて、眠たくなった。薄暗い部屋に差し込んだ光が雪の反射でやけに明るく見える。私は目を閉じて、その光に射されたままに眠った。この盛岡の冬と共に、安らぎに眠った。

これは日本語で投稿されたものです